

企業ニュース ハウス食品グループ本社

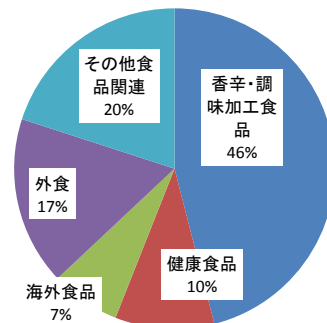
(東証1部：2810) <https://housefoods-group.com>

作成者：兵藤三郎

カレールーを主軸とした加工食品メーカー

◇18.3期売上高構成比

1913年、大阪市松屋町筋（通称まっちゃまちすじ）に薬種化学原料店「浦上商店」創業。1947年、浦上糧食工業所（株式会社化）、1949年、ハウスカレー浦上商店、1960年、ハウス食品工業、1993年、ハウス食品に改称した。2013年持株会社体制に移行し現社名となった。1963年に発売された「バーモントカレー」が代表するように、カレールーを主軸とした加工食品メーカー。カレーレストランを展開する壺番屋（2015年）、業務用スパイスメーカーのギャバン（2016年）、でん粉麺「マロニー」を販売するマロニー（2017年）を買収し、事業領域の拡大とシナジー効果追求を目指す。19.3期よりハウス独自の乳酸菌「L-137」の本格事業展開をスタートさせる。飼料販売（B2B）、機能性素材の販売（B2B2C）、機能性食品や飲料の提供（B2C）などの展開を検討している。



(出所) ハウス食品グループ本社資料より
CAM作成

乳酸菌事業が新たな成長ドライバー

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が1,458億円、前年同期比2%増、営業利益が86億円、同15%増。マロニー社の新規連結効果などもあり国内香辛・調味加工食品が堅調に推移、広告宣伝費の効率運用などもあり収益力が向上、上期営業最高益を更新した。海外食品事業も堅調に推移し業績貢献した。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が3,017億円、前期比3%増、営業利益が180億円、同11%増。上期の業績を踏まえ通期目標を売上高で4億円、営業利益で10億円上方修正した。マロニー社の新規連結効果一巡、厳しい販売環境が継続している「ウコンの力」など減収要因はあるが、乳酸菌事業への本格参入やその他食品関連事業の増収でカバーし増収を確保。費用の効率運用を継続させ2期連続の営業最高益を目指す。「L-137」は東南アジアの伝統的な発酵保存食から発見した菌株で、加熱処理でも高い製品特性が維持できる。現在進行中の第六次中計では最終年度（21.3期）に70億円の売上目標を掲げている。

[株価動向・投資判断]

新たな成長ドライバーとして乳酸菌事業に本格参入したことを評価したい。事業の成長に加え、費用の効率運用による業績拡大も期待できよう。

<2810 ハウス食G 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	283,812 (17)	12,312 (14)	13,951 (15)	8,683 (▲ 62)	84.5	32.00
18.3	291,897 (3)	16,288 (32)	17,207 (23)	9,353 (8)	91.0	38.00
19.3 予	301,700 (3)	18,000 (11)	19,600 (14)	11,600 (24)	112.9	44.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2018/11/16)	3,810 円
年初来高値(高値日)	4,135 円(18/6/13)
同 安値(安値日)	3,120 円(18/9/7)
予想 P E R (19.3 予)	33.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,496.6 円
P B R	1.53 倍
予想配当利回り	1.15 %
(1株当たり配当金44.00円)	
R O E (18.3)	3.8 %
発行済み株式数	10,276 万株